

「18歳を市民に」

高生研

第62回全国大会 2024 大阪大会



会期・会場
2024年
8月2日(金)～4日(日)
大阪商業大学

大会テーマ

「学校は楽しい！生徒が学校生活をつくるとき」

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月 2日 金		受付 9:30 ～	プレ企画 記念講演会		受付 12:30～		全体会 13:30～17:00		休憩	交流会 18:00～20:00		
8月 3日 土		一般分科会 9:00～12:30			昼食休憩 12:30～ 13:30		一般分科会 13:30～17:00		休憩	総会 18:00～20:00		
8月 4日 日		問題別分科会 9:00～12:00		別れの 集い 12:10～ 12:50								

プレ企画 記念講演会 8月2日(金) 10:00～12:30

『遊びのないところから新しい世界は生まれない』
〈どうなる？どうする！大阪から公教育を考える〉
『崩壊するアメリカの公教育』の著者で、教育研究者・土佐町議の鈴木大裕氏と考える。いまの大阪の公教育がかかえる問題点は、将来の全国の姿！？大阪の公教育の問題点と、その対抗軸を、全国の皆さんと考えていきたい。

鈴木氏は、16歳で米国に留学し、大学、大学院で教育学を学ぶ。帰国後、通信教育で教員免許を取得し、6年半、千葉の公立中で教壇に立つ。2008年に再渡米し、大学院博士課程へ。2016年、研究の成果である『崩壊するアメリカの公教育 日本への警告』(岩波書店)の出版を機に、一家で高知県土佐町に移住し、2019年4月に土佐町議会議員選挙でトップ当選。教育を通した町おこしにとりくんでいる。

全体会 (開会行事・基調討論 8月2日(金) 13:00～17:00)

高生研 2024 大阪大会 基調発題 かとう りさ(公立高校)
学校は楽しい！生徒が学校生活をつくるとき

「本当は、この高校に来たくなかった」。不本意進学の子供達に向き合っ、「楽しくなければ学校じゃない！」という構えでとりくんだHR づくりの記録。統制と処罰がはびこる状況にあって、「理不尽」から生徒を守り、「事件・トラブル」を成長の糧とし、プロジェクト方式でクラス行事をつくった。

校内のルールを変え、行事を復活させ、「退学者0」で卒業できた。なぜ、楽しい学校生活をつくり出せたのか、参加者と共に解き明かしたい。

主催：全国高校生活指導研究協議会

<一般分科会 8月3日(土) 9:00~12:30>

1 [HR] ジェットコースターマジック (オンライン対応決定)

大矢由加(大阪)

学校では、先輩教員らが文化祭で取り組む企画を中心としたHR実践が大きな成果を上げたこととして受け継がれつつあった。木製ジェットコースターをHR企画に選ぶことは生徒たちの成長を大きく促せると……。校内での若手教員が、木製ジェットコースターに取り組もうとする生徒たちと、向かい合い挑戦していった実践報告。

2 [HR] 夜間定時制でのRを巡る3年間

渡部翔子

夜間定時制高校に着任と同時に担任した12人は現在4年次までに半減した。それぞれに過酷な背景を持つ生徒たち。中でも不登校歴が最も長いRは、義務教育の9年間のうち、登校できた期間は3年にも満たない。九九もアルファベットも身近な漢字も身につけていない。学習や愛着に課題を持ち、コミュニケーションがひととき難しいRと行きつ戻りつ格闘した3年間のHR実践。

3 [授業] 「公共」における主権者教育の試み (オンライン対応決定)

井出教子・中江彬文(京都)

社会参画の経験は、主権者教育の重要な構成要素とされている。その理由は、自分自身が社会を変えられる存在であると子どもたちが認識する機会となるからである。そのような機会を「公共」でどのように設けることができるか。23年度に取り組んだ“プロジェクト企画”の実践が生徒たちに与えた影響について報告したい。

4 [授業] 「冤罪」から出発する法教育の可能性 (オンライン対応決定)

佐藤岬平(大阪)

勉強や生活に様々な「しんどさ」を抱える生徒たち。「生徒たちにとって本当に必要な学びとは何か」を考えてきた。憲法の学習で「冤罪」を扱ったところ、生徒たちの反応がよかった。そこで学校の特色である「学ぶ文化祭」でも「冤罪」に取り組むことにした。勉強に対して疎外感を抱いていた生徒たちが、「冤罪」学習にのめりこんでいく。「冤罪」から出発する法教育の可能性を探っていきたい。

<一般分科会 8月3日(土) 13:30~17:00>

5 [HR] 「生きる」という意味で健全な場を作る (オンライン対応決定)

内藤美紀(東京)

問題や病気や障がいがあっても生徒たちはクラスに集う。その場をどう豊かに自分たちで作っていけるようになるかを軸として、たとえそこに、葛藤し、苦しんだとしても、その場にいること、他者と関わり続けることが大事だと思えるような集団性を作り、そこから学ぶことを求める。生きづらさを抱えた2人の生徒に焦点をあて、彼らが心の声を伝えながら、HR集団とともにどう歩んでいったかを報告する。

6 [HR] 細分化された人間関係に、集団づくりをしかける (オンライン対応決定)

鈴木誠一(大阪)

一見すると、まじめでよく努力する生徒が集まっている看護科。報告者は3年生から担任となり、慌てて行事の指導に取り組んだのだが、担任の恣意的なメンバー選別に抗議の声があがり、その後のクラス指導で頭を抱えることになる。生徒たちの願いはどこにあるのか。担任としての願いはどこにあるのか。一緒に読み解いていきたい。

7 [授業] “楽しく深められる”授業を求めて (オンライン対応決定)

～歴史教材の発掘と考える歴史への転換～

櫻井 颯(静岡)

良い授業とは何なのか。生徒の学習意欲を喚起させ、本当の意味での楽しい授業とは何なのか。この問いを考え続けてきた。現時点でたどり着いた答えは“楽しみながら深められる”授業である。

これまでの授業実践を中心に、歌教材や実物教材を活用しての授業と生徒の興味・関心、視方や考え方の変容との関連性について論じるとともに、今求められるべき授業の可能性を探ってみたい。

8 【授業】 謎解きJ倶楽部 活動の軌跡～プロジェクト型授業の実践報告～

吉田真一（熊本）

生徒たちが「何をすればいいのですか?」「どうしてするのですか?」「それも自分たちで決めるのですか?」と疑問と不安と不満を持って取り組み始めた授業が、「とりあえずやるしかない」「おもしろそう」「うまくいかない、たいへん」「なんとかなる」とふっきれとわくわくと障壁と最後は自信を手に入れた。3年生選択、4単位の授業を報告する。

<問題別分科会 8月4日(日) 9:00~12:00>

1 ルールメイキングによる校則改定のとrikumi

(オンライン対応決定)

長野仁志（大阪）

いわゆる「ブラック校則」が問題化して数年、校則の見直しが全国的に広がっている。文科省はじめ教育行政も生徒の人権上の観点から、また社会情勢の変化により合理的といえない校則は生徒や保護者等の意見もふまえ、見直すように求めている。A高校ではNPO法人「カタリバ」が主導する「ルールメイキング」による校則見直しにとりこんできた。その取り組みから、「生徒の権利・自治と教員の指導」「次の時代へ、学校がめざすべき教育と教員の仕事」について考察したい。

2 新高生研の生活指導を探って

(オンライン対応決定)

相良武紀（豪 クイーンズランド）、望月一枝（栃木）、藤本幹人（滋賀）

なぜ私たちは高生研に集うのだろう。同僚や生徒との関係に傷つき、社会の情勢に失望し、日々に疲れながらも参加するのは、なにか大切な気づきを、ともに見出すことが目指されている集団であるのかもしれない。高生研が温かくも馴れ合い関係に留まらず、発見の泉であり続けるには、何を大切にしていきたいのか。旧の解散を受けて新高生研が試行錯誤してきた過程を、「私たち」を主語にした実践記録をもとにみなさんと語りあいたい。

3 文学の授業と生活指導

但馬徹哉（東京）

本分科会では、国語だけでなく他教科の先生にも参加いただき「高瀬舟」の模擬授業を試み、学校の中で「低学力」とされ「受け皿」と呼ばれる選択授業での、生徒とのやり取りを書き起こした授業記録をもとに、授業づくりに悩んだり葛藤したりする思いを、交換／交感／交歓しあい深めたい。気軽にご参加を。

4 「弱さ」の共有、ケアコミュニティと自治的世界

(オンライン対応決定)

内藤実践（和光高校）を元に

森 俊二（埼玉）、内藤美紀（東京）

内藤実践は、生徒たちが自分の弱みやつらさを語り、生徒同士をつなぎ自治的な世界（活動、リーダー集団など）をつくりだしている。今、なぜ我々は「弱さ」を語れないのか、またなぜ「弱さ」を語り共有することができるのだろうか。そしてそうしたケアコミュニティは、自治的な共同の世界とどうつながり、自己と彼らの関係性はどうエンパワーされるのだろうか。当事者研究やプリズン・サークルなどの実践研究も視野に入れて、共に深めたい。

交流会 8月2日(金) 18:00~

7月1日現在

・「教育」で地域をつくる!/ 学校現場の声が伝わる! (大阪) 18:00~20:00

梅北瑞輝さん（宮崎県立高校）、鈴木大裕さん（教育研究家）、久保敬さん（元大阪市立小学校長）ほか豪華ゲストとともに、質疑応答会や座談会を行いながら、語り飲み食べる“交流会”です。定員や事前申し込み等は、今後の高生研大会応援ブログHPにご確認ください。

・ジャズを楽しむ 名称:「大阪ジャズの夕べ」 (大阪) 18:00~

※ 希望者は、次頁QRコードから詳細確認の上、

<高生研大会会場周辺アクセス>

大阪商業大学 (〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町 1-5-25)

の最寄り駅は近鉄奈良線の「河内小阪駅」。



<保育> 希望される方は、フォーム（下記 QR コードから申込）にご入力ください。

* 締め切り 7月15日

<参加案内>

- 参加費** ・全日程（3日）参加 4,000円 ・2日参加 3,000円 ・1日参加 2,000円
・高生研会員（※会員会費還元により1～3日参加一律）2,000円
・学生・保護者 1,000円（ただし大会実行委員として参加した場合は無料）
・オンライン参加※ 1,000円
※オンライン参加の場合、紀要はPDFファイルをダウンロードして参加して頂きます。

申込み方法 「高生研全国大会 2024 大阪大会参加申込フォーム」
からお願いします。下記 QR コードから簡単にアクセスできます。

フォーム申込み締切 オンライン参加申込、対面参加申込みとも 7月28日（日）

宿泊 各自でお取りください。

（オススメホテル）U-コミュニティホテル（会場から徒歩1分）

大阪府東大阪市御厨栄町1丁目330 TEL 06 6784 3000

*電話にて「高生研大会に参加」と伝えると割引料金で予約可能（部屋数限定）

<大会に関する最新の情報・問い合わせ>

「高生研大会ブローガー18歳を市民に一」

<https://kouseiken.jp/Taikai/>

中西治（高生研大会グループチーフ）

e-mail: taikai-chief@kouseiken.jp

